



本館に之を
下

5
5627
3



再入
號 5627
卷 3



石動

短歌行

方壘



麻の世流くまわく後の事らふに
みづににえくこゝろの神地 里お
月のさかふみ肺しこくし 兼佐
餅くくしこくしこくしから 史西
いほおぬよくくしこくしから 可首
まのくくしこくしこくしから 眉永



非下

後宮の供よふ赤いふらしこ
けしけりてか合ちあさあし
靴鞋の赤白と書よと年そろて
山の白雲のれが辨 辰
吹あけよと書深草のしの後 泉
秋よ物よとくきと新子つ 者
二
眩しとくきとくきとくきと
祖父掃のりてとくきとくきと
お 登

何れも何れもくきとくきとくきと
きとくきとくきとくきとくきと
川ぬよ何れもくきとくきとくきと
馬のくきとくきとくきとくきと
くきとくきとくきとくきとくきと
橋のくきとくきとくきとくきと
町あつたきとくきとくきとくきと
くきとくきとくきとくきとくきと

十藤園よむのこまき茶の真をたす
研くくくくくくくくくくくくくくくく
徒

名録

茶いやうくハ相のるはく
あふくくくくくくくくくくくくくくくく
眉糸
徳川の徳くくくくくくくくくくくく
史書

新くくくくくくくくくくくくくくくく
家美くくくくくくくくくくくくくくくく
耳物
きくくくくくくくくくくくくくくくく
揚亭
清くくくくくくくくくくくくくくくく
方望

安宿

あんと研くくくくくくくくくくくく
石糸

初夜

月影の〜〜〜なつ月巴歌
 了の月の〜と〜や〜の草飲之
 顔〜の月〜と〜や〜の草
 風や〜して〜の豆汁汁文
 海さの襟わ〜のハ〜と谷
 ここの〜〜〜の〜言

塔偶

月影の神〜〜〜
 佳夕
 以甲
 鳥尉
 追之
 雨吹

七女の肩よりさかすかすのむらさき
さきさきのさきさきさきさきさき
新玉とさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき

井波

七さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき

富士 短歌行

七さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき

けそこの湯をきく浦から 有聲
 赤松とせむたぐ宮にらり 一室
 枯れ櫻をにまじ 桜坂川
 日かたしるるもよそよそわたり
 あーぬのえくく 侍傍菊
 朝日とあまの山あしちるるあまの山
 木をみよきくく 後とやあまの山
 一とよよの山あまの山あまの山 川

二
 被らるる 雛の妹入 ぬ

いふもあまの山あまの山 好 着
 いこも中よ 佐野こへ 岸 岸
 漏るるあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸
 岸をいふもあまの山あまの山 岸 岸

自憎ふ心とまじりて 仁華 中
勢守の紅衣も 河見 川
いふていふも 控ぬ 並大雄 菊
秋葉に葉のまじりて 裁許 菊

同前 短歌

お佐木や菊もまじりて 市の中 一席
深下と梅もまじりて 里の
みよ法のふし月入もやハシにて 一酒
信の挿除し川よりよこ 交信
入翠年の原もまじりて 晒控 白推
あま味の味もまじりて 庫
青燒く団が裏より 瑞とていひ 女
柳のまじりて 日まじりて 酒

舞下 二

平家くしおえきまらまらる
あてふふてあけりき雲の
あ代とよよまのあけり
あてよるのあけり
あへよあえてやうけし
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり

大工名よほやまのあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり
あけりあけりあけり

排

名録

ねんねのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 金ねんねのふしはくちやあまれ川 伝推
 夕さにはくちやあまれ川 伝推
 午のふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推

鯖鈴のあまれ川 伝推
 あまれのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推
 ちのふしはくちやあまれ川 伝推

二 涼 しく かな 暑 の ね あり 嘆 天 橋
 暮 ら せ ぬ 夢 みて 涼 かな 友 の せ 蕤 牖
 信 楽 の 名 入 鹿 下 とも 送 れ べ 有 節
 山 石 の 寒 風 かな 涼 の こと 色 秋 一 席
 月 光 映 して 涼 しく せ ても 涼 しく せ ば 月 二 川

備 短 寄 り

お 涼 しく 祈 せ ば 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 指 山

粟 飯 粥 小 里 の あり 日 里 ぬ

烏 白 又 代 官 送 り 専 ぬ 知 十

涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 曙 窓

一 部の 裁 の せ い と 知 十 組 合 魚 口

涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 蚊 呂

涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 休 水

ハ 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 涼 しく せ ば 野 雲

婦年七十一歳とせり 男ふし 馬南

あきの山とていふ 招針山

この山もあつていふと云ふ事なし 家

親と云ふ法もいふ事なし 十

山の中へ町へあつていふ事なし 呂

又日の行きの事いふ事なし 辰

おしほへつる事いふ事なし 雲

山の中へ町へあつていふ事なし 水

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 南

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

おのころの二階へあつていふ事なし 辰

名録

唯のふしむる心むいぬ 雲うふ 野雲
けい枝の懐くちか 神味もふ 知十
あふまにらわくあはしやまを 曙忘
らるるの月くらゝをさかしの月 魯は
赤壁よりかきしりの雲し 指山
ふれよふとふしと 橋より山 移 保水

さむし本くれはあまふし 鳥
ふしけい枝の姿やきくはし 致昌

魚津 短歌行

けい枝の若く入きふれし 倚
夕日の橋と横よりね 里
初鮭と海下へ月の市きと 巴園

非下

舞

舞

ウ

長 遠 留 七 依 又 一 圃 暮 山 徒 意

羽 衣 の 舞 と 舞 衣 一 緒 ぶ け 柳 雨

舞 衣 借 び と 舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

流 石 の 舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

八 卦 七 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 十

三 舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

一

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞 衣 一 緒 ぶ け 圃 映

舞

ありしとき〜いさ〜いさ
 遠くから来た神の内なる
 こと〜海とほら〜いさ
 町のくまのちの料印
 像入信〜いさ〜いさ

同利 短きり

ありしとき〜いさ〜いさ
 遠くから来た神の内なる
 こと〜海とほら〜いさ
 町のくまのちの料印
 像入信〜いさ〜いさ
 二粒のふりま〜いさ〜いさ
 候も時をとも〜いさ〜いさ
 漸きと押ゆるの月〜いさ〜いさ
 流りやうの味〜いさ〜いさ
 氣の度〜いさ〜いさ
 くるる後の〜いさ〜いさ

鏡の巻とよゆと評文の文後や
素行
ふるも今の子年い念に
耳に
ふのたふふふふふふふふ
定体
有し様娘のふふふふふ
玄嘉
二
ふのふふふふふふふふ
お
こふふふふふふふふ
合村
掃除ふふふふふふふふ
一
渡といふふふふふふ
人
救

ちやふふふふふふふふ
一
ふふふふふふふふ
城
具山の精ふふふふふ
之
ふふふふふふふふ
こ
細ふふふふふふふふ
以
ふふふふふふふふ
川
備ふふふふふふふふ
家
かふふふふふふふ
言
屏
子

名録

浮きとひくさるるからくさるる 倚去

夏草やあつたあつた 比 蔭 柳 雨

念仏のあつた 中つた 葉山子 比 巴 固

父をやらねまきしぬる 砂の上 山 省

養老のしり掛しあつた 葉山子 比 崔 洞

旅人七つはまうらむ 柳 三 子 岡 村

梅のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 徑 迷

入道のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 細 長

海老のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 太 丸

鶴のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 魚 味

雲のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 衣 布

木のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 方 粒

山のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 磯 石

谷のあつた ちかちか ちかちか ちかちか 葉 竹

さしこゝ國もあつてさうさうさ
たゞさうさあつてさうさ
さしこゝ國もあつてさうさ
たゞさうさあつてさうさ
さしこゝ國もあつてさうさ
たゞさうさあつてさうさ
さしこゝ國もあつてさうさ
たゞさうさあつてさうさ
さしこゝ國もあつてさうさ
たゞさうさあつてさうさ

生地 短哥行

枝中

夕日さすもさや 時あるの條下地
山崎さすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地
いほもさすもさや 時あるの條下地

非下

非下

下京よりあけらるるあり
脈くくまきしふくやうの
いほるのおれ母かゝるや
はらふたの贈りもの
の留りてしもの里まは
ま方の響もあしき
ふ年まのまきとあたる
酒かたりてあうりる
中

はつて葉葉子あつあつ
張るはひらふまの
お涙の待とまじけり
橋のまきほくくむお
一口村として月よむ
お撲見娘のせきき
あつあつ葉葉くくら
おれははらうる
水

ももむしよめれあしむるあれ中
徳を祝ふ山の音代又

名録

もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ

もも中納言のあしむるあれ

詢 短きり

もも中納言のあしむるあれ

もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ
もも中納言のあしむるあれ

暮雨をききし一月の初を
 五條 内義にさくらさきの急を
 曾六 小原よきししる 藤 玉 ころもれ 鴻羽
 こころわらぬふくまは法後 周路
 今更待たば海のしら ぶく 浪水
 菊 仕合と かくし お母 末枝
 もの碎 ちりしよきよ 藤 ありし 侍丁
 心 ちりしよの ねよ ともあれ 河津

妻買とけしよ さらけの ますより
 了 ねまぬ ちりしよ 何ん ちりし
 情 糸の 入腹し ちりしよ ね
 情 心の けよ 大工 手株 ちりし
 今 川町の 尖口 ちりしよ 車
 六 けしよ ちりしよ ありし 藤
 株 夕月 七目 痛まけりし 藤 藤
 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤

り

新好とくし念存の下こは林

かきうし名のきくあしき水

町並とくあけくむの尾を貴涼

柳の隣くはしきやう丁

名録

まぶのねはくはるきあし子子に定

鳴ぬりく尾しはかりぬ柳子五株

夕顔やあはれあきとあけりて周路

よさくちる姫おちるおのじ曾云

いふ葉のさしあきうねの月素林

十たぬや怪おとみるくし木杵丁

改およ葉とちしあは葉の鳥与

大福川はねや肌のをさかばは河涼

掛るるくさくさる龍と小鯛の草花

排下

仕

新うし国府へうくきき原に 渭水
 茶のせと焼がくきるあはに 洗耳
 砥石の信のせりしきふ 胡江
 十月の小店おきや 梅のせ 楚且
 せぬのよれはすや大根の 海羽
 せきやぬの化粧いし 雲のた 其指

越後

糸魚川 短哥行

け王のさるるはねや大根川

九解

けきし日影のせりしきふ 黒石
 掛あきるききしききしき 佐藤
 市のあきのらけいよにけ 守石
 瓶の木の下のきききき月の朝 荻陽
 けきの跡のあききき 小筑

新さくふる所あるは坊に云 義方
 其のまの記をよむ品と云ふは
 縁のふに新さくふるは云々
 御所の縁に梅も花も
 一いつとて入内へ梅も花も
 せいさくせいせいせい
 二
 ありのまの法よるるお深下
 うまはやくやくの御年
 雲

勅字のうらうらあるは
 頃法しちるむ竹の子
 月いやくちれあふし
 縁に梅も花も
 けし梅も花も
 今やう後さくころの道ね
 縁に梅も花も
 縁に梅も花も

あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中

名録

あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中

あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中
あまのついでにけしきの中

柳

聖

諸国上遠近 文通部

洛陽

川里よ女のなまらあり菊のむ 吾仲
 連翹もつよもついと咲より 危字
 坂もつよもつよもつよもつよ 山只
 那知ていふる女中一月えふ 未六
 近江

草の原のあけらのもやとみ月 腰下 酒堂
 花もつよもつよもつよもつよ 昌房
 十二にほもつよもつよもつよ 大信 幸陀
 若入の路のいもつよもつよ 山只 山只

但馬

一葉もつよもつよもつよもつよ 山口 仙歌
 花のいれもつよもつよもつよ 本仲
 石見

以臨のさむし下守中 まほ 山 菜之
あけり人あふてゆき 田植ま 和以
粽まよ 月ほれき 廣らふ 考天

仔細

夕涼の夕顔のしん 又付らん 中
あけりし何の次より 晒 若士
しんまも 小まよふ あり 柿の旅 柳如
さるまよふと なるまよふ 一し 花 桑葉

山の陰に 待し きの しの 若狭

あけりし きの しの 給ふ 午飯

一まよふ きのよ しの 山

あけりし きの しの 何有

あけりし きの しの 潜柳

あけりし きの しの 仙行

あけりし きの しの 嵐角

あけりし きの しの 秋又

とくくわんきんていこくくきんふ 五反 里下

風中も 龍も 雲も 春も 夏も

尾張

名月の中のおのこ 巴倫

まはら一 三徑

世のふも 丁牧

候も 巴薩

空ふし 昇自

いふ 以之

炉り 比況

おき 美土

美濃

春風 角足

涼風の 涼之

枝 佐柳

あゝいふも人ほくもあぢのそ 依角
 うほも合せり人の 氷う柳 燕河
 生板よりあぢあぢあぢあぢ 宗久
 春のむらうや秋風よこめり川 松支
 山吹下よきさのうれ 里 本調
 らう月のうらむいさあう 中津川 春之
 苗代や秋によきし あぢ 合之
 さくらよまほと歌く 塩根よ 松北

人うほあぢいほくや 杖のうれ 依角
 さあーやあと歌く 又 三位
 津川やあぢあぢあぢあぢ 松のう 經水
 あぢの給うあぢあぢあぢあぢ 又妻
 こころや杖のうらむいさあう 伴三
 一葉のうらむあぢあぢあぢあぢ 柳吾
 春の合しうほむいさあう 又 宗李
 る梅や隣よほくあぢあぢあぢ 梅久

しんしん舞の舞も 移りぬる 浦柳

越後

まじりし ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

七羽

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

あまの ちよるる けりし 後 意行

十知

又通區部

お枝の垢を洗すらるる一茶

近江守村

苦みねの心 物なむ 糖子のとよみ

濃尾夜庵

除日

町へ来てし松より吹く 懺ふ

伊勢四日市

王之

船牛角やうらむる 木魚ふ

越前金澤

江西

あけしとよみんてん 燈籠かきこめふ

表濃原田

水尺

本松のほねもあつち 庵れぬ

表濃原

松寸

いほくのぬとあつち 柳の布

同神戸

李子伝

まらぬひやく ねに 友の七

同新加波

阿茶

寝心着くもてち 高小ほえ光

同三橋

拙川

二子ととひほく 一の月

同西島

袖日

ふらふら 蕨もねく 糸はらう

同

水也

戯作とるる 千代紙の巻ふり

同僧

御舟

まらぬとよみんてん ちりちり ちりちり

信濃善奉

未格

その肺よりなるもの

小澤山 遊魚

畫して其の形を牛馬の如く

義農伴尾 熱水

しるすものなるもの

同 洞極

しるすものなるもの

同 足己

しるすものなるもの

同 梅志

夕十和十御十よりなるもの

同 中野

しるすものなるもの

尾羽屋 馬六

大いなる月の形を

同 常和



山依り見しもの

越後高田 巻耳

しるすものなるもの

同 江津 自見

しるすものなるもの

同 山隈

享保戊申年五月廿日

京町二条

徳川氏御用



歸公堂

何屋亭秋立

庭の樹と秋てや暮布にさゆ一汁 喜平

ふしの物ささるる 嘉禮 里紅

ふかしの化秋の心目さゆて 白紅

